

ドイツ語教育実習生受入れのお願い

日本独文学会 ドイツ語教育部会
部会長 中川慎二（関西学院大学）

関係者各位

貴学におかれましては、日頃からドイツ語教育に力を入れてくださり心から感謝申し上げます。

さて、昨今益々高等教育機関における教育の国際化を推進することが求められておりますが、その一環として、ドイツ及びオーストリア、スイス等からの学生を、ドイツ語の授業を補助する実習生として受け入れてくださるようお願い申し上げます。

現在、ドイツ語圏の多くの大学では、「外国語としてのドイツ語（Deutsch als Fremdsprache、略して DaF）」という教育課程が人文科学系の学部に設置されておりますが、その卒業要件として一学期間程度の海外における実習（ドイツ語で Praktikum 「プラクティウム」）を課されています。そして、その課程を専攻する学生のうち、日本語を学習し、日本における実習を希望する学生も少なからず存在いたします。しかしながら、日本の多くの大学では、この実習生を受け入れる公的な制度がないために、門前払いされるケースが多いのが現状です。

海外のすべての大学から実習生を受け入れていただく制度を作っていただけると一番有り難いのですが、既存の制度の柔軟な運用ということで、貴学が学生交流協定を締結している海外協定校からだけでも、交換留学生の枠内で実習生を受入れ、ドイツ語の教育実習を行わせることをお許しいただければと思います。もしくは、客員研究員として受け入れるという可能性もあります。実習生には当然指導教員（受入教員）が付き、その指導の下で、実習を行います。最終的には、その指導教員もしくは所属機関が実習証明書を発行することになります。

実習生を受け入れることにより、キャンパスの国際化、外国語教育の活性化、協定校との連携の深化などの多くの利点もございます。なにとぞ、実習生を受入れていただきたく、日本の高等教育機関のドイツ語教員を代表いたしまして、ここにお願い申し上げます。

敬具